

『病院臨床におけるグループアプローチの現在』

～心理アセスメントの視点から～

医療領域で働く心理職の皆さん、医療における心理臨床に関心のある臨床家、大学院生の皆さんにご案内いたします。「大学病院心理臨床家の集い」は、地域を越えて、医療機関で活動する心理臨床家たちの日々の臨床に直接役立つ、さまざまな企画を行っております。「大学病院」という名称は、全国に点在する大学病院や基幹病院の心理職が旗印となり、各地の心理臨床家や関係者をつなぐという意味が込められております。昨年に引き続き、今年も心理臨床学会の自主シンポジウム企画として、オンライン開催といたします。全国の臨床家たちが年に一度、気軽に立ち寄り、仲間を作り、共に学び合える場を作りたいという思いで、今回で27回を数えるこの集いのご案内差し上げております。

今回は「病院臨床におけるグループアプローチ」にフォーカスを当てます。これまで個別臨床におけるアセスメントや、多職種協働での見立てに関する話題は取り上げられてきましたが、「グループ（集団）」を見立て、支援するという視点から議論する機会は少なかつたように思います。一言でグループアプローチと言っても、対象となる疾患や年齢層もさまざま、いざグループに向き合うとなると何をどう見立てて介入していくことが適切なかと迷われる方も多いのではないのでしょうか。そこで今回の集いでは、最前線で実践を重ねられている3名の臨床家をお招きし、その具体的なアプローチや、グループにおいて実践されている心理職ならではのアセスメントについて語っていただきます。すでにグループアプローチを実践されている方、これから取り組みたいと考えていらっしゃる方、普段は個人対象の面接を中心に実践をされている方を含めて、多くの皆さまにお立ち寄りいただき、その魅力を共有できればと思います。

演者の東京大学医学部附属病院デイホスピタルの清水希実子先生には、「精神疾患のある若者がリカバリーを目指すためのグループアプローチ～多職種連携における心理士の役割～」、白峰クリニックの河西有奈先生には、「トラウマをテーマとするグループアプローチ～アディクション女性グループの実践より～」、市立豊中病院の松向寺真彩子先生には、「総合病院での身体疾患におけるグループの活用」というテーマでそれぞれ話題提供していただきます。

改まった場ではなかなか質問できなかつたり、語り合えなかつたりする、現場の本音を話せるアットホームな会です。本会終了後には、そのままZoom上で30分程度の懇親会も企画しております。シンポジウム後の意見交換や交流を深める機会となりますので、お気軽にご参加いただけますよう幹事一同心待ちにしております。

2025年7月吉日

大学病院心理臨床家の集い 幹事一同

岩満 優美（北里大学大学院医療系研究科）

尾崎 翔一（大和市保健福祉センター）

水野 康弘（文教大学人間科学部）

酒井 佳永（跡見学園女子大学心理学部）

森 美加（帝京平成大学大学院臨床心理学研究科）

中野 彩（KKR立川病院）

北島 正人（秋田大学教育文化学部）

松野 俊夫（日本大学医学部）

元永 拓郎（帝京大学文学部）

津川 律子（日本大学文理学部、当代表）

<タイムテーブル>

日時 : 2025年10月5日（日） 10:00～12:00（受付開始 9:30～）

: 日本心理臨床学会第44回大会自主シンポジウムとして開催
（大会サイトにZoom URLとパスコードが掲載されます。大会参加手続きが必要です）

テーマ : 『病院臨床におけるグループアプローチの現在 ～心理アセスメントの視点から～』

話題提供 : (1) 清水 希実子 先生（東京大学医学部附属病院）

(2) 河西 有奈 先生（白峰クリニック）

(3) 松向寺 真彩子 先生（市立豊中病院）

司会 : 岩満 優美（北里大学）、尾崎 翔一（大和市保健福祉センター）

▼参加条件：日本心理臨床学会第44回大会に参加していること（学会会員であることが大会参加条件）

▼参加方法：オンライン開催のため、定員は300名まで可能です。予約はありませんので、大会参加後に閲覧可能となる大会サイトに掲載される自主シンポジウムのURLとパスコードを確認の上ご参加ください（Zoom使用）。

当日は先着順で受付いたします。なお資料をダウンロードできるホームページのURLも、大会サイトに掲載します。資料ファイルのダウンロードのパスワードは、自主シンポジウムのZoomパスコードと同じです。

なお、資料ファイルのダウンロード可能期間は、9/28（日）～10/5（日）です。

お問い合わせ：電子メール：daigaku@pcp@gmail.com FAX：018-889-2693

以上